令和6年度

事務・事業点検評価シート

(令和5年度事業分)

令和6年8月

真室川町教育委員会

第1次真室川町教育振興計画の目標指標 一覧

主要 施策	目標指標	小6・中3	H30(県)	現況値(R5)	目標(2023)
基本方針 1◆いのちを尊重し、豊かな心を育成する					
1 「いのちの教育」の推進					
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小学校	81.7(86.4)	89.0(84.1)	県より上回る	
	中学校	94(83)	90.7(81.9)	現状維持	
学校の決まりを守っている児童生徒の割合	小学校	90(91.9)	94.9(-)	現状維持又はそれより上回る	
	中学校	98.5(95.2)	80.0(-)	現状維持	
2 いじめ防止・不登校対策の充実					
いじめの認知件数に占める、いじめが解消しているものの割合	小学校	100	81.3	100	
	中学校	100	68.8	100	
不登校児童生徒の出現率	小学校	0.33(0.40 H29)	2.1	現状維持	
	中学校	3.76(2.69 H29)	9.5	減少させる	
基本方針 2◆たくましく、健やかな体を育成する					
3 子どもの体力向上に向けた取り組みの充実					
新体力テストで全国平均以上の項目数の割合	小学校	75	43.8	増加させる	
	中学校	43.8	62.5	増加させる	
4 食育・健康教育の推進					
朝食を毎日食べている	小学校	98.4(95.9)	97.9(95.3)	現状維持	
	中学校	95.5(94.6)	88.9(93.0)	現状維持	
5 生活リズムの改善とメディアコントロール					
スマートフォン・タブレット・PC/ゲーム機などを利用してメール・動画・SNSを2時間以上している児童生徒の割合	小 高学年	10	39.5	現状維持	
	中学校	28	53	現状維持	
基本方針 3◆確かな学力を育成する					
6 確かな学力の育成					
国語、算数・数学の内容が「よく分かる」児童・生徒の割合	小学校	83.4(H29)	85.9(82.5)	増加させる	
	中学校	71.7(H29)	77.7(75.4)	増加させる	
7 校種をこえた連続性のある学びの推進(重点施策3)					
将来の夢や目標をもっている	小学校	91.7(86.2)	93.4(82.3)	現状維持	
	中学校	72.7(75.5)	75.9(69.1)	80	
8 個の能力を伸ばすためのきめ細かな指導の充実(重点施策2)					
学校の授業時間以外に勉強を1時間以上する児童及び2時間以上する生徒	小学校	80(76)	58.8(65.0)	現状維持	
	中学校	42.5(29.2)	53.8(61.7)	50	
英検3級以上受験する中学生の割合		21.0(H29)	38.9	県より上回る	
英検3級以上程度の英語力のある中学生の割合		28.1(H29)	43.9	県より上回る	
基本方針 4◆未来に向け、自己の生き方を考える力を育成する					
9 未来に向けた「ふるさと学習」の推進(重点施策1)					
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小学校	86.6(80.9)	89.1(75.6)	現状維持	
	中学校	75.8(59.1)	64.8(49.0)	現状維持	
地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある児童生徒の割合	小学校	55(52)	84.8(80.9)	60	
	中学校	42.2(44.5)	74.1(70.9)	60	
10 「本物体験」によるキャリア教育の推進					
将来の夢や目標をもっている(再掲)	小学校	91.7(86.2)	93.4(82.3)	現状維持	
	中学校	72.7(75.5)	75.9(69.1)	80	
基本方針 5◆グローバル化・情報化に対応した力を育成する					
11 こ・保・小・中一貫の外国語活動・外国語教育の推進					
英検3級以上程度の英語力のある中学生の割合(再掲)	中学校	28.1(H29)	43.9	50	
12 ICT教育・情報モラル教育、新聞活用学習の充実					
週1回以上新聞を読んでいる児童生徒の割合	小学校	38.3(23.6)	10.8(14.6)	50	
	中学校	13.6(17.2)	14.9(11.6)	50	

主要 施策	目標指標	小6・中3	現況値(県)	現況値(R5)	目標(2023)
基本方針 6◆学びを支える土台づくりを推進する					
13 地域とともにある学校づくり					
地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある児童生徒の割合	小学校	38.3(41.7)	84.8(80.9)	50	
	中学校	37.9(28.1)	74.1(70.9)	50	
14 教職員がより子どもに向き合える体制づくり					
「学習指導員・支援員」「校務支援システムの導入」「部活動指導員の配置」の着実な実施		—	—	着実な実施	
15 子どもたちの安全・安心の確保					
学校が楽しい児童生徒の割合	小学校	91.2	91.3(85.2)	現状維持	
	中学校	96.2	94.5(81.9)	現状維持	
16 特別支援教育の充実					
障害のある児童生徒に対する個別の支援計画の作成率	小学校	100	100	100	
	中学校	100	100	100	
基本方針 7■家庭教育の充実を図る					
17 教育の原点「家庭教育」の充実					
地域子育て支援拠点事業の参加延べ人数		1116人	730人	増加させる	
基本方針 8■子(個)の学習支援の充実を図る					
18 子(個)を支える家庭学習のサポート					
保護者向け進路講演会の実施		—	—	着実な実施	
19 自己を高める学習へのサポート					
英検3級以上受験する中学生の割合		21.0(H29)	38.9	県より上回る	
基本方針 9■子育てに夢をもてる環境をつくる					
20 安心して子育てができる環境づくり(重点施策4)					
放課後児童健全育成事業への参加延べ人数		60(H29)	9,979人	増加させる	
21 町ならではの教育基盤の整備(重点施策5)					
「副教材費無償化」「公営塾の拡大充実」「おいしいふるさと給食」の着実な実施		—	—	着実な実施	
基本方針10●人と社会、学びをつなぐ環境をつくる					
22 地域の教育力向上を目指した学習環境の充実					
「社会教育団体との連携」「大学連携事業」の着実な実施		—	—	着実な実施	
23 ライフステージに応じた学びの機会の支援					
「えんにち」「町づくり出前講座」「まざれや体験」の着実な実施		—	—	着実な実施	
24 学校・家庭・地域等との連携					
学校は、各種お便り、その他の方法で情報をよく発信していると感じる保護者の割合		97	88.2	現状維持	
基本方針11●感性豊かに生きる学びの場をつくる					
25 文化に親しみ、文化を愛する環境づくり(重点施策6)					
図書貸出数		1688冊	7,126冊	増加させる	
基本方針12●誰もが楽しめるスポーツを推進する					
26 スポーツに親しみ、健康な体づくり(重点施策7)					
総合型スポーツクラブ加入率(%)		0	0	10	
27 競技スポーツの振興					
真室川町体育協会表彰者(団体)数		40	R4 6	現状維持	
基本方針13●ふるさとの心を耕す場をつくる					
28 郷土愛の醸成					
「伝承文化の発表」「文化財の保存・希少動物の保全保護」「町歴史民俗資料館企画展」の着実な実施		—	—	着実な実施	

事務事業一覧（評価シート一覧）

（単位：千円）

No.	新規 継続	基本 方針	施策	事務事業名	5年度 予算	5年度 決算	内部 評価	外部 評価
1	継続	1	2	スクールカウンセラー活用事業	-	-	A	A
2	継続	2	4	おいしいふるさと給食（高騰対策等含む）【R6～学校給食無償化事業】	8,325	7,710	A	A
3	継続	2	4	食の教育大使事業	354	60	A	A
4	継続	2	4	保育施設おいしいふるさと給食	148	92	A	A
5	継続	3	6	学力向上対策事業	288	221	A	A
6	継続	3	7	本物教室本物体験推進事業	1,216	1,174	A	A
7	継続	3	8	特別支援教育推進事業 （学習指導員等配置事業）	28,881	27,367	A	A
8	継続	3	8	公営塾運営事業	6,032	5,393	A	A
9	継続	4	9	ふるさと学習推進事業 （特色ある学校づくり推進事業含む）	600	558	A	A
10	継続	5	12	I C T教育推進サポート事業	1,059	991	B	B
11	拡充	6	15	教育関係運転業務及び施設維持管理委託事業	53,955	52,462	B	B
12	継続	6	15	学校施設長寿命化事業	142,678	141,425	A	A
13	継続	7	17	子育て支援拠点事業	17,478	17,036	A	A
14	継続	8	18	副教材費補助事業	9,182	8,553	A	A
15	継続	9	20	要保護・準要保護就学援助事業	5,172	2,994	A	A
16	継続	9	20	特別支援教育就学奨励事業	1,386	956	A	A
17	継続	9	20	遠距離通学費援助事業	1,700	1,629	A	A
18	継続	9	20	保育施設長寿命化事業	36,763	36,613	A	A
19	継続	9	20	放課後児童健全育成事業	9,216	9,216	B	A
20	継続	9	20	子どもの育ちと学びをつなぐ研修事業	277	268	A	A
21	継続	9	20	民間保育施設の運営費補助事業	33,070	32,684	A	A
22	継続	9	20	子育て世代の負担軽減事業	16,244	15,249	A	A
23	継続	9	21	県立新庄神室産業高等学校真室川校魅力化 地域連携事業（真室川校支援事業含む）	4,576	3,212	A	A
24	継続	10	22	公民館分館運営費補助金（施設整備費 補助金）	2,628	2,530	A	A
25	継続	10	22	社会教育施設長寿命化事業	4,500	4,302	A	A
26	継続	10	23	生涯学習推進事業	509	314	B	B
27	継続	10	23	古河市少年少女交流事業	530	522	A	A
28	継続	10	24	学校・家庭・地域の連携協働推進事業	9,024	8,646	A	A
29	継続	11	25	まちなか図書館構想に基づく学びの拠 点づくり事業	762	682	A	A

事務事業一覧（評価シート一覧）

（単位：千円）

No.	新規 継続	基本 方針	施策	事務事業名	5年度 予算	5年度 決算	内部 評価	外部 評価
30	継続	11	25	スタディツアー事業	167	85	A	A
31	継続	12	26	スポーツ部門本物教室事業	30	30	B	B
32	継続	12	26	社会体育施設長寿命化事業	40,217	39,379	A	A
33	継続	12	26	生涯スポーツの振興事業（社会体育費）	4,886	4,071	B	B
34	継続	13	28	ふるさと文化推進事業	2,019	1,404	A	A
35	継続	13	28	文化財保護事業	1,244	1,024	A	A
36	継続	13	28	歴史民俗資料館運営事業	7,488	6,615	A	A

事務事業名	スクールカウンセラー活用事業	所管係	学校教育係																												
基本方針	1 いのちを尊重し、豊かな心を育成する																														
施策名	2 いじめ防止・不登校対策の充実																														
事業費	予算額	—	決算見込額																												
<p>1 目的</p> <p>いじめや不登校等児童生徒の問題行動・課題等への対応のため、県費によるスクールカウンセラーを配置し、学校におけるカウンセリング機能を高める。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒へのカウンセリング（個々の実情に合わせた相談等含む） 89件/年 カウンセリング等に関する教職員及び保護者に対する助言・援助 146件/年 児童生徒のカウンセリング等に関する情報収集・提供 13回/年 中学校の全生徒及び小学校高学年に対するレジリエンス教育の実施 6回/年 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するものを派遣することにより、児童生徒に寄り添った対応が可能となった。 また、全小中学校でのレジリエンス教育の実施により、児童生徒が困難や逆境に直面したときに乗り越えられる力が養われた。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価</p> <p>A</p> <p>（評価の理由）</p> <p>中学校を軸にスクールカウンセラー2名を配置することによって、子どもたちが安心して悩み等を相談できるような体制づくりができた。また、町内全小学校5・6年生でレジリエンス教育を行い、中学校進学に向けた心の準備も図られた。</p> <p>「いのちの教育」や「いじめ防止・不登校対策」について、保護者会等で話題にし、家庭での話し合いを推進する必要がある。</p> <p>外部評価</p> <p>A</p> <p>（外部評価委員の意見等）</p> <ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーの複数配置により、問題や悩みを抱える児童生徒の早期対応はもとより、いじめ、不登校、問題行動等の未然防止の観点からも大きな成果を上げていると感じた。 これからの時代を生きる子どもたちには、困難や挫折に耐え、修正できる力が必要だと強く感じている。その観点からも、小学校段階からのレジリエンス教育に取り組まれていることを高く評価し、期待している。 スクールカウンセラーの存在は非常にありがたい。コロナ禍からの不登校が増加していることは寂しいが、今後もカウンセリングなどを活用しながら不登校の子どもが学校に行ってみようという気持ちになれるような場所を提供していただきたい。 				評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																												
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																												
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																													
	C	必要性や緊急性が低い																													
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																												
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																													
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																													
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																												
	B	対象や負担の見直しの余地がある																													
	C	適切でない																													

事務事業名	おいしいふるさと給食事業（高騰対策等含む） （R6～学校給食無償化事業）		所管係	学校教育係																																						
基本方針	2 たくましく、健やかな体を育成する 9 子育てに夢をもてる環境をつくる																																									
施策名	4 食育・健康教育の推進 21 町ならではの教育基盤の整備																																									
事業費	予算額	8,325千円	決算見込額	7,710千円																																						
<p>1 目的 次代を担う児童生徒の食育と地域の食文化に対する理解を促進するため、質の高い給食及び山形県内産又は真室川町内産の食材を利用した地産地消給食を提供する。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別献立給食の実施 3回 ・おいしいふるさと給食ニュースの発行 3回 ・地産地消食材に係る補助 25円/食、物価上昇率に応じた物価高騰対策補助 R5：12.8%、年3回の特別給食に対する補助 300円/食 による食の確保 ・生産者との交流 1回 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緒方湊さん監修メニューをPRすることで、「真室川町」全体のPRにつながった。 ・児童生徒が地元食材を学習することによって、郷土愛の醸成につながった。 ・安全安心な食に対する関心を高めることができた。 ・食を通じた資質能力の育成【食育の充実6つの視点（食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化）】につながった。 ・おいしいふるさと給食アンケートで「おいしかった」と答えた児童生徒の割合 91.0% <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="3">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td colspan="2">教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td colspan="2">目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td colspan="2">適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 緒方湊さん監修のメニューにより地元食材の魅力を最大限引き出すことができ、子どもたちにとっても大好評の給食となった。 R5までは基準額分を保護者負担としていたが、R6以降は給食費無償化に取り組み、併せて引き続き国に対し無償化の要望を行う必要がある。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・予算及び取り組み内容の面から見て、真室川町の重要教育施策の一つだと思う。単に地産地消の推進にとどまらず、扱う食材の生産過程や生産者の願い、さらには、まつわる歴史や文化に広げた学びにもつながり、児童生徒の心に刻まれる取り組みとなっていると感じた。是非、子どもたちの豊かな心の醸成につなげてほしいと思う。 ・特別給食は、毎回子どもたちが楽しみにしている。学校では野菜を育てるところから行っているため、心の育成にもつながっていると感じる。是非継続すべき事業と感じる。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分			判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある		C	必要性や緊急性が低い		有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している		A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難		公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）		B	B	対象や負担の見直しの余地がある		C	適切でない	
評価項目（評価の視点）	評価区分			判定																																						
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		A																																						
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																								
	C	必要性や緊急性が低い																																								
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している		A																																						
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																								
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																								
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）		B																																						
	B	対象や負担の見直しの余地がある																																								
	C	適切でない																																								

事務事業名	食の教育大使事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	2 たくましく、健やかな体を育成する 4 未来に向け、自己の生き方を考える力を育成する																															
施策名	4 食育・健康教育の推進 10 「本物体験」によるキャリア教育の推進																															
事業費	予算額	354千円	決算見込額	60千円																												
<p>1 目的</p> <p>町の教育資源である「伝承野菜」等を活用した探究的な学び及び食育・キャリア教育の充実に向けて、全国的に知名度があり、知的好奇心が豊かで実行力をもつ最年少野菜ソムリエプロ（緒方湊さん）との交流・連携を行い、町の食を誇りにおもう心を醸成する。 活動内容の発信活動を通して、食に関する資質・能力の育成や将来に向けた自己実現や社会（町）づくりに必要な、「起業家精神」を育成する。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おいしいふるさと給食メニューの監修 3回 ・ビデオレターによる交流 1回 ・町広報「みなと通信」の刊行 3回 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝承野菜を活用した探究的な学びにより、町を誇りに思う心の醸成につながった。 ・自らの手で販売活動をしたことにより、起業家教育で期待される資質・能力の育成につながった。 ・伝承野菜を通じた食育やキャリア教育を学ぶことによって、自己実現や社会づくり、町づくりに必要な力の育成につながった。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由)</p> <p>A おいしいふるさと給食における緒方湊さんメニューにより、特別給食に係る地元食材の魅力を引き出すことができたが、令和5年度については給食メニューの監修や「みなと通信」の発行のみにとどまったことから、次年度以降は湊さん本人との直接交流も含め、起業家精神に係る取組みを実施する必要がある。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等)</p> <p>A ・緒方湊さんとのビデオレターによる交流はあるものの、年を重ねるごとに（低学年になればなるほど）どんな人物か分からなくなっていくのではないかと思います。今後は是非直接交流をすべきと考える。 ・みなと通信の回覧にメニューが掲載されていた。調理しようと思う町民の方もいると思うため、回覧ではなく全戸配布してはどうか。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	保育施設おいしいふるさと給食		所管係	子育て支援係																												
基本方針	2 たくましく、健やかな体を育成する																															
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																															
施策名	4 食育・健康教育の推進																															
施策名	21 町ならではの教育基盤の整備																															
事業費	予算額	148千円	決算見込額	92千円																												
<p>1 目的 次代を担う児童の食育と地域の食文化に対する理解を促進するため、質の高い給食及び山形県内産又は真室川町内産の食材を利用した地産地消給食を提供する。</p> <p>2 現状・進捗 ・町内保育所2か所、認定こども園1か所において年3回実施し、子どもでも読めるような文書を作成し、配布。町の食材について周知を図っている。 ・通常の給食とは別に、一食あたり300円と高騰対策分39円を上乘せした給食を提供している。</p> <p>3 効果 ・年3回の特別献立の特別感から、真室川産の野菜等への理解・知識の深まりや、食べたことのない食材への興味を引き出す効果がみられる。 ・小学校でも行われている事業であり、年齢を重ねるごとに地元への地域愛の醸成をすることができると思われる。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 保育施設での食育に適した事業であり、回を重ねるごとに児童の食材への理解が深まっている様子が見られる。幼児期からの地元への愛着の醸成に役立っていると考えられる。緊急性のある事業ではないが、継続していくことにより将来町に戻ってくる人口を増やす一因になりうると考えられ、必要な事業であるといえる。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・予算及び取り組み内容の面から見て、真室川町の重要教育施策の一つだと思うので、小中学校における同事業へのつながりとねらい等の違いを吟味する必要はないだろうか。 ・回を重ねるごとに子どもの食材への理解が深まっている様子が見てわかるのは素晴らしい。偏食、個食、孤食なども増える中、食は大切にしていってほしい。 ・保育所施設での特別給食も是非継続していただきたい。小学校のふるさと給食にもつながるため、一種類だけでも伝承野菜を育ててみてはどうか。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	学力向上対策事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	3 確かな学力を育成する																															
施策名	6 確かな学力の育成																															
事業費	予算額	288千円	決算見込額	221千円																												
<p>1 目的 小中学校が連携し授業改善を通して、子どもたちに社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育むために、日々の授業改善への意識と実践力の向上を目的とする。</p> <p>2 現状・進捗 ・授業づくりと真室川スタンダードの活用、外部講師を招聘した小中学びづくり研修会や校内授業研究などの実施 9回/年 ・各学校による、児童生徒の実態に応じた授業改善 ・探究型学習による主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善</p> <p>3 効果 ・小中合同で研修会を実施することで、授業づくりにおける小中連携の強化が図られた。 ・授業改善に対する教師の意識と実践力の向上がみられた。 ・子どもたちに社会を生き抜く基盤となる確かな学力の育成につながった。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目 (評価の視点)</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか (目的達成度)</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) 「真室川町授業づくりスタンダード」により、各学校が児童生徒の実態に応じた授業づくりを行ったことで、指導の際の重視すべきことを共通理解の上実践することができた。今後は、評価や授業前後も含めた授業づくりについて研修を行っていく必要がある。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A</p>					評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	B																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	本物教室本物体験推進事業		所管係	学校教育係																																
基本方針	3 確かな学力を育成する 4 未来に向け、自己の生き方を考える力を育成する																																			
施策名	7 校種をこえた連続性のある学びの推進 10 「本物体験」によるキャリア教育の推進																																			
事業費	予算額	1,216千円	決算見込額	1,174千円																																
1 目的 こども園・保育所、小・中学校で「人」「もの」「こと」に直接触れる「本物教室」等を通して、豊かな感性を育む。 大学生と交流・学習する機会を設定し、成長への憧れや知的好奇心を醸成する。																																				
2 現状・進捗 <ul style="list-style-type: none"> 山形交響楽団によるスクールコンサートの開催 1回 本物教室、本物体験 小学校（アランマーレとの交流、神田紅講談会、ワイヴァンスとの交流等） 中学校（中総体時の各種事業への参加 ※生け花やピザづくり体験などへの参加） 真校生とあさひ小学校児童との伝承野菜と活用した合同料理教室の開催 1回 																																				
3 効果 <ul style="list-style-type: none"> 本物の体験、鑑賞によって豊かな感性の醸成につながった。 町を誇りにおもう心の醸成につながった。 成長への憧れ（成長の実感、知的好奇心）が育まれた。 																																				
4 自己評価 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table>					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	
内部評価 A		（評価の理由） 山形交響楽団スクールコンサートによる豊かな感性を育む教育や、真校生とあさひ小学校児童との合同調理実習による異校種交流・学習機会の設定等により、知的好奇心の醸成が図られた。 令和5年度は大学生との交流ができなかったため、次年度以降の事業に盛り込む。																																		
外部評価 A		（外部評価委員の意見等） <ul style="list-style-type: none"> 直接体験でき、体験したことを家庭でも話題にして話してくれることが多く、子どもたちに良い影響を与えてくれる機会になっている。 写真や動画でなく、実際に見るということは記憶にも残るし、好奇心も強くなる。そのような体験により感性も育っていくと思う。 																																		

事務事業名	特別支援教育推進事業 (学習指導員等配置事業)		所管係	学校教育係																																
基本方針	3 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する 6 学びを支える土台づくりを推進する																																			
施策名	8 個の能力を伸ばすためのきめ細かな指導の充実 16 特別支援教育の充実																																			
事業費	予算額	28,881千円	決算見込額	27,367千円																																
<p>1 目的 真室川町における特別支援教育の充実を図るため、各校に学習指導員及び支援員を配置しながら個々の能力に応じた学習補助を行うことを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導員の配置 5名 (真小 2名、あさひ小 1名、北部小 1名、真中1名) ・学習支援員の配置 6名 (真小 3名、あさひ小 1名、真中 2名) ・外国語指導助手(雇用) 1名 ・外国語指導助手(派遣) 1名 ・英語指導補助員 1名 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の個々の能力に応じたきめ細かな指導及び支援ができている。 ・教職員の負担軽減につながっている。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目 (評価の視点)</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか (目的達成度)</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 特別支援学級に係る各校の実情に合わせた学習指導員や学習支援員の配置によりきめ細かな指導・支援ができ、教職員の負担軽減にもつながった。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・外国語指導助手の独自予算での配置、さらに学習指導員、支援員、英語指導補助員等の複数配置は学校数や規模を考慮しても、手厚い配置であり行政努力を感じる。 ・特別支援学級で指導や支援を受けている子どもたちにとって、細かなところまで支援していただけるため、引き続き継続していくべき。</p>					評価項目 (評価の視点)		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目 (評価の視点)		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	公営塾運営事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	3 確かな学力を育成する 9 子（個）の学習支援の充実を図る																															
施策名	8 個の能力を伸ばすためのきめ細かな指導の充実 21 町ならではの教育基盤の整備																															
事業費	予算額	6,032千円	決算見込額	5,393千円																												
<p>1 目的 学校・家庭・地域が連携し、児童・生徒が学ぶことができる環境づくりのサポートと、個別の学びに応じた学習の定着を図ることを通して、英語への関心と公営塾の通塾率を高め、グローバル化社会に対応できる人材を育成する。</p> <p>2 現状・進捗 ・児童生徒の英検受験希望のコース別指導 ・英検受験料助成（学年相当級以上受験に対し、年1回助成） 延べ61件 ・英検対策講座の通年開講 受講者 59人 ・夏期及び春期の算数・数学講座の開講 受講者 延べ76人</p> <p>3 効果 ・中学生の英検3級以上の高い受験率及び合格率を維持することができている。 ・進路選択の拡大につながっている。 ・グローバル化社会に対応した人材の育成につながっている。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 英検対策講座、算数・数学講座を開講し、昨年度と同程度の受講者数を確保することができたが、今後の課題として遠方の児童生徒に対する対策として、オンライン講座を開設する必要がある。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・遠隔地からの公営塾参加者向けに、オンライン講座の開設は、大いに評価できるが、同じ教室の中で刺激し合うことと、生の授業の重要性の観点から、スクールバスを運行させることが出来ないのか、再度検討いただきたい。 ・英検対策だけでなく、春夏の算数・数学講座を開講していただき、中学生にとっても目標を持って取り組む場になっていると感じる。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	ふるさと学習推進事業 (特色ある学校づくり推進事業含む)		所管係	学校教育係																																
基本方針	4 未来に向け、自己の生き方を考える力を育成する																																			
施策名	9 未来に向けた「ふるさと学習」の推進																																			
事業費	予算額	600千円	決算見込額	558千円																																
<p>1 目的 地域の理解を深めるため、町の教育資源「人」「もの」「こと」などを活用した探究的な学びを推進し、地域の過去に学び、今を見つめ、未来を考え、学んだことを町内・町外に紹介・発信する活動を通して、町を誇りにおもう心を醸成する。</p> <p>2 現状・進捗 ・総合的な学習の時間を核とし、地域財産を活用した特色あるふるさと学習の展開 ・小学校から中学校までの系統性あるふるさと学習の推進に向けたカリキュラムの活用による実施 真小：桜餅づくり、フィットネス教室、スキー教室 北部小：森林学習、スキー教室 あさひ小：伝承野菜学習、炭焼き体験、昔語り・童歌 真中：班ごとの町への提言</p> <p>3 効果 ・町を誇りにおもう心の醸成（町に生きる意欲の喚起、町の未来を創造する態度、町のよさの発見・発信）につながった。 ・真室川中学校生徒による町への提言によって、起業家教育で期待される資質、能力の育成（チャレンジ精神、創造性、実行力、コミュニケーション力 等）につながった。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 小学校では伝承野菜を使った真校生との合同調理実習や、森林学習の一環である炭焼き体験教室などのふるさと学習により地域の理解が深まり、中学校では小学校のふるさと学習を基盤とした探究学習により町への提言につなげ、町や地域をおもう心が醸成に培っている。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・地域の方との交流を深められたり、昔語りや童歌に関しては後世に残していきたいという気持ちが子どもたちにはあるため、今後も継続すべき事業だと思う。 ・中学校生徒による町への提言で出されたうるし塗りのスマホケースなど、是非商品化につなげてほしい。</p>					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	ICT教育推進サポート事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	5 グローバル化・情報化に対応した力を育成する																															
施策名	12 ICT教育・情報モラル教育、新聞活用学習の充実																															
事業費	予算額	1,059千円	決算見込額	991千円																												
<p>1 目的 新たな時代を生きる子どもたちにグローバル化・情報化に対応した力を育成するために、教員の指導スキルの向上と効果的なICT教育の推進を図る。</p> <p>2 現状・進捗 ・学校におけるICT活用 電子図書の活用 全児童生徒 ICT支援員の配置 各校1回/月 ・家庭におけるICT活用 休日等の学習支援ソフトによる学習の定着</p> <p>3 効果 ・児童生徒の情報活用能力の育成につながる授業、家庭学習におけるICT活用の拡大につながった。 ・ICTの強みを生かした個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善への教員意識の向上につながった。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目 (評価の視点)</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか (目的達成度)</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) B ICT支援員を活用しながら効果的な授業を実施することができた。また、家庭における一人一台端末の学習時間を増やすため、学習支援ソフトや電子図書システムによる読書時間を増やすだけでなく、休日の利用や公営塾でのオンライン受講に係る利活用も検討する必要がある。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) B ・一人一台端末の利活用の充実を図るため支援員の配置や学習支援ソフト、電子図書システムの導入と順調な事業拡充に向けた取り組みは、大いに評価できるが、今後町内全小中学校全員の利活用の拡充と日常化を期待したい。 ・コロナ禍での活用は多くできていたが、5類に移行し、落ち着いてからは家庭学習に活用する機会もほとんどなくなってきているように思う。何らか活用する場を検討すべきと考える。</p>					評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	B																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	B																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	教育関係運転業務及び施設管理委託事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	6 学びを支える土台づくりを推進する																															
施策名	15 子どもたちの安全・安心の確保																															
事業費	予算額	53,955千円	決算見込額	52,462千円																												
<p>1 目的 学校の統廃合に伴う遠距離通学のための「通学支援」や、歩道などがない通学路に対する「安全確保」により、登下校に対する通学環境を整備する。 町内に分散する各教育施設について、常日頃から適切な施設管理を効率的・効果的に行う。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 各小学校2km以上の児童及び中学校3km以上の生徒に対するスクールバスの対応 小28人 中40人 冬期間の除雪等に道幅が狭くなる、歩道がない等の安全確保ができない東町、宮町地区の児童生徒に対するスクールバスの対応 置き去り防止装置の設置 11台 小学生の夏季休業中のプール利用、中学生の部活動関連に対するスクールバスの対応 各教育施設の維持管理 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の登下校時に係る安全確保が図られた。 各教育施設の適切かつ効率的・効果的な維持管理が図られた。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) B スクールバス対象地区については、除雪による幅員狭小道路や歩道のない地区の児童生徒を対象とした増便を行い、安全確保に努めることができた。今後は、安全対策と併せて気象状況に対応したスクールバスの運行を検討していく。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) B ・児童生徒の安全確保の観点からスクールバスの対応の拡充については評価できるが、今後は、児童生徒の体力や忍耐力の低下等について注視していくことも必要と思う。また、前述の通り公営塾に関わる児童生徒の公平性の確保についても検討いただきたい。 ・置き去り防止システムや通学支援の面で、早急に対応していただいている。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	学校施設長寿命化事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	6 学びを支える土台づくりを推進する																															
施策名	15 子どもたちの安全・安心の確保																															
事業費	予算額	142,678千円	決算見込額	141,425千円																												
<p>1 目的 児童生徒の快適な学習環境を維持するため、年次計画により計画的な改修を実施し、学校施設の長寿命化を図る。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度策定の小中学校長寿命化個別施設計画に基づき、令和12年度までの10年間の計画期間における施設長寿命化を推進する。 令和5年度実施事業 <ul style="list-style-type: none"> 真小:擁壁改修、放送設備更新 あさひ小:照明改修(学校施設環境改善交付金) 北部小:プールサイド改修、高圧ケーブル改修 真中:給排水管及び浄化槽更新(学校施設環境改善交付金)、放送設備更新 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 長寿命化により使用年数の向上とライフサイクルコストの縮減、財政負担の平準化が図られた。 毎年各学校施設の老朽化状況を確認し、必要に応じて改修の優先度の見直しを行い、予防保全を進めることができた。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目(評価の視点)</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか(目的達成度)</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 安全な学習環境確保のため、計画的な改修が必要である。国庫補助金である学校施設環境改善交付金を活用し、財政負担の軽減を図りながら中長期的な改修が進められた。また、物価高騰等により当初計画の概算事業費よりも実施事業費は大きくなっている。</p> <p>外部評価 A (外部評価委員の意見等) ・学校施設・環境の整備については、計画的かつ迅速に行われており、子どもの安全・安心の確保と共に、教職員がより子どもに向き合い教育活動に専念できる体制づくりの面からも大いに評価できる。さらに、対処的修繕から、予防的且つ計画的な改修という視点での長寿命化を推進しようとする姿勢が素晴らしい。</p>					評価項目(評価の視点)	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目(評価の視点)	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)	B																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	子育て支援拠点事業		所管係	子育て支援係																												
基本方針	7 子育てに夢をもてる環境をつくる																															
施策名	17 安心して子育てができる環境づくり																															
事業費	予算額	17,478千円	決算見込額	17,036千円																												
<p>1 目的 就学前の乳幼児とその保護者の遊びの場、交流の場、子育て相談の場づくりとして事業を実施し、子育てへの支援を図る。他機関や他施設の子育ての様々な情報を提供する。</p> <p>2 現状・進捗 ・令和5年度事業 ①子育て支援センター開所（土曜開所含む） 763名 ②ベビーマッサージ（10回） 62名 ③ワークショップ（10回） 110名 ④わんぱく広場（4回） 40名 ⑤遊びの広場（月2回） 87名</p> <p>3 効果 ・子育て孫育て中の保護者が集い、子育てについての情報交換や、助産師への個別相談、事業への参加によって子育てへの安心感と、子育てを楽しむ気持ちを育むことが期待できる。また、託児をして、講座に参加することで子育て中のリフレッシュと参加者同士の交流へとつながっている。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 （評価の理由） A 出生数の減少や保育施設の低年齢の利用増など、ひろば事業の対象者が減少しているが、町外からの利用もあり、事業参加者数はほぼ前年並みであった。世代間交流を図りながら、利用者のニーズと年齢に合わせた事業を開催し、子育て世代の居場所の提供は行政として必要である。</p> <p>外部評価 （外部評価委員の意見等） A ・少子化や地域の人間関係の希薄化、さらに就労環境の悪化など家庭を取り巻く課題も多く、子育て支援事業等の企画の難しさを感じる。対象者のニーズと利用を阻害する問題点の分析が必要不可欠ではないだろうか。他の事業と連携したニーズの把握（「子育て会議」におけるニーズ調査結果の分析等）も是非行ってほしい。 ・町外からの保育施設の利用があり、交流が図られて良い。にぎわいのある町になってほしい。 ・年々子どもの数が減少していると同時に親が仕事に就いてしまうため、利用者が減少しているように感じる。しかし、子育て中の保護者にとってはとても良い息抜きの場にもなっているため、なくす事なく継続するべき事業だと思う。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	副教材費補助事業		所管係	学校教育係
基本方針	8 子（個）の学習支援の充実を図る 9 子育てに夢をもてる環境をつくる			
施策名	18 子（個）を支える家庭学習のサポート 21 町ならではの教育基盤の整備			
事業費	予算額	9,182千円	決算見込額	8,553千円
1 目的 学校で使用する副教材費を無償化し、保護者の経済的負担を軽減することで、子どもが安定して学習に取り組む家庭環境をつくる。				
2 現状・進捗 ・小中学校で使用するテスト、ドリル、副読本、ワーク、プリント等の公費負担 小学校 4,865千円 中学校 3,688千円				
3 効果 ・保護者の経済的負担の軽減が図られた。				
4 自己評価				
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある	
		C	必要性や緊急性が低い	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A
		B	対象や負担の見直しの余地がある	
		C	適切でない	
内部評価	（評価の理由） 副教材費の公費負担を継続実施し、保護者負担の軽減が図られた。 A			
外部評価	（外部評価委員の意見等） ・副教材費の無償化は、公営塾の開設、給食費値上げ分公費負担から無償化に向けた取り組みと併せて、保護者の経済的負担を軽減し、安心して子育てができる家庭支援策であり、高く評価されるものだと思う。 A			

事務事業名	要保護・準要保護就学援助事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																															
施策名	20 安心して子育てができる環境づくり																															
事業費	予算額	5,172千円	決算見込額	2,994千円																												
<p>1 目的 経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学援助費を交付することで義務教育の円滑な実施に資する。</p> <p>2 現状・進捗 ・学用品費、通学用品費、入学準備金、校外活動費、修学旅行費、体育実技費、学校給食費、医療費、オンライン通信費に係る援助費を支給 ・R5該当者：小学生 20名、中学生 11名</p> <p>3 効果 ・生活保護や住民税非課税世帯、児童扶養手当受給者ほか、経済的な理由により児童生徒を就学させることが困難な家庭に対して援助することによって、保護者負担の軽減を図り、学校生活に係る環境整備につながった。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) 準要保護対象世帯の負担を軽減することができている。 A</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	特別支援教育就学奨励事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																															
施策名	20 安心して子育てができる環境づくり																															
事業費	予算額	1,386千円	決算見込額	956千円																												
<p>1 目的 就学奨励法及び予算に基づき、特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者等の経済的負担を軽減することを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗 <ul style="list-style-type: none"> ・学用品費、通学用品費、入学準備金、校外活動費、修学旅行費、体育実技費、学校給食費、医療費、オンライン通信費に係る援助費を支給（国1/2補助） ・R5該当者：小学生 14名、中学生 9名 </p> <p>3 効果 <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級に在籍する児童生徒の家庭の経済状況に応じ、その就学に要する経費の支援を行うことにより保護者等の負担を軽減することができた。 </p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 特別支援学級に在籍する児童生徒保護者の負担を軽減することができている。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	遠距離通学費援助事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																															
施策名	20 安心して子育てができる環境づくり																															
事業費	予算額	1,700千円	決算見込額	1,629千円																												
<p>1 目的 遠距離通学の児童生徒について、保護者に対し扶助を行い、通学費の負担軽減を図るとともに学校教育の円滑な運営に資することを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗 ・R5該当者 路線バス定期券支給：小学生28名、中学生40名 送迎車賃支給：2名</p> <p>3 効果 遠距離通学の児童生徒に要する経費の援助を行うことによって、保護者等の負担を軽減することができた。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 A (評価の理由) 遠距離通学をしている児童生徒保護者の負担を軽減することができている。</p> <p>外部評価 A (外部評価委員の意見等)</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	保育施設長寿命化事業		所管係	子育て支援係																												
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																															
施策名	20 安心して子育てができる環境づくり																															
事業費	予算額	36,763千円	決算見込額	36,613千円																												
<p>1 目的 安心・安全な保育活動に加え、低年齢児の入所希望の増加など保護者ニーズに応えるため、保育施設の整備について計画的な推進を図る。</p> <p>2 現状・進捗 ・保育施設個別更新計画を策定済みであり、適正な時期に調査設計、改修工事等を行っていく。 ・令和5年度事業 ①安楽城保育所屋根等改修工事監理委託料 ②釜淵保育所屋根等改修工事設計委託料 ③安楽城保育所屋根等改修工事 ④釜淵保育所園庭トイレ撤去工事 (施工費100万円以下の小破修繕を除く)</p> <p>3 効果 ・快適な保育環境づくりや安全対策に効果が大きい。 (熱中症予防や送迎時の安全確保、雨漏りの解消など)</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目 (評価の視点)</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか (目的達成度)</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 保育所等の社会福祉施設は、事故等が発生しない安心安全な環境が前提であり、少しの懸念があった場合、速やかに対応が必要となる。 真室川町では、安全配慮の観点から緊急性の高いものから予算の範囲内で随時改修を進めている。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・多面にわたり安心・安全な保育活動ができるよう実施していることが評価できる。 ・年々子ども数は減少しているが、安心して活動できる場所でなければならないため、施設整備は必要不可欠である。</p>					評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	放課後児童健全育成事業		所管係	子育て支援係																																
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																																			
施策名	20 安心して子育てができる環境づくり																																			
事業費	予算額	9,216千円	決算見込額	9,216千円																																
<p>1 目的 保護者が働いている家庭の子供たちに安全な居場所として放課後学童クラブを運営することにより、放課後の時間を有意義に過ごすための、学習の見守りや遊びの機会を提供し、子供たちの健全な成長をサポートすることを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗 ・真室川町では、社会福祉協議会に業務を委託しており、社協事務職員を含む11人態勢で学童クラブを運営。 ・真室川学童クラブ、北部学童クラブ、あさひ学童クラブの三か所でそれぞれ学校の余裕教室を活用し実施しており、1年生から主に5年生までの児童が学童クラブを利用。 ・R5年度の開所日数は真小：233日、北部小：234日、あさひ小：223日 登録者は真室川54名、北部21名、あさひ12名(R6.3末)であり、年間延べ利用人数は9,109人。</p> <p>3 効果 ・子供たちが放課後の時間を安全かつ有意義に過ごすことで、学習意欲の向上や社会性の発達に効果があった。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) B 子どもたちに安全で有意義な放課後の時間を提供している。学習の見守りや社会性の発達、保護者の安心感など多くの利点がある。今後も継続して事業を展開することで、子供たちの健全な成長を図っていく。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・親が安心して子どもを預けることができる関係にあり、評価できる。</p>					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	子どもの育ちと学びをつなぐ研修事業		所管係	子育て支援係																												
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																															
施策名	20 安心して子育てができる環境づくり																															
事業費	予算額	277千円	決算見込額	268千円																												
<p>1 目的 保育指針に掲げる「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえながら、こ・保・小のスムーズな接続につなげるため、研修会を開催し、保育の質の向上を図る。専門家より指導を頂き、保育スキル向上を目指す。</p> <p>2 現状・進捗 ・R5年度研修内容 ①こ保小連携研修会 外部講師による 3回開催。対象者：幼児施設、小学校の職員 研修受講者数：真小学区28名、あさひ小学区28名、北部小学区20名 ②運動遊び研修会 外部講師による 各保育施設2回 計6回実施 ③幼児施設視察研修 庄内地方施設の視察1回 9名</p> <p>3 効果 ・幼児施設と小学校の職員が「幼児期までに育ってほしい10の姿」を視点とし、子どもの姿を見取り語り合うことで、子ども理解が深まり、主体的な保育の実践につながる。 ・こ・保・小の連携により「虹の架け橋プログラム」作成が円滑に進み、さらに連携が深まる。 ・専門家の指導から子どもの可能性や専門知識が習得することができる。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 保育士一人ひとりが、研修からの学びを意識しながら保育を行っていることで、施設全体に保育の質の向上が見られた。継続的こ・保・小連携により「虹の架け橋プログラム」が作成したことにより、町内保育施設・小学校の共通意識が高まった。保育の質の向上と、小学校との連携は保護者への安心感をもたらしている。今後も継続した研修が必要である。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・就学時の引継ぎのみならず、年間を通じて意図的計画的に、こ保小の連携が図られ、幼児期に育てたい姿を共通認識して、それぞれの教育活動を行い成果を上げている点を高く評価したい。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	民間保育施設運営費補助事業		所管係	子育て支援係																												
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																															
施策名	20 安心して子育てができる環境づくり																															
事業費	予算額	33,070千円	決算見込額	32,684千円																												
<p>1 目的</p> <p>出生数の減少に伴う保育施設の収入減が顕著であるため、受入れ体制の整備や施設備品購入を補助することにより、保育環境を充実や保育サービスの継続を支援し、保護者の保育ニーズに応える。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低年齢児対策補助金 民間2施設 低年齢児の受入れ対応のために、R3.4を基準として保育士等を多く配置した場合に人件費を補助 ・要配慮児童対応補助金 民間1施設 要配慮の児童対応のために、クラス担任以外の保育士をクラスに配置した場合に人件費を補助 ・保育施設備品購入等支援事業費補助金 民間2施設 <ul style="list-style-type: none"> ①保育施設が直接申請した補助金（国1/2、施設1/2）の施設の自己負担分を町がさらに補助（施設1/2+施設自己資金） ②子どものプライバシー保護に関する設備備品購入補助（国1/2、町1/4、施設1/4） ・延長保育事業補助金 民間1施設 延長保育事業に係る光熱水費や人件費のうち国が定める基準額を上限として補助（国1/3、県1/3、町1/3） <p>3 効果</p> <p>民間保育施設の収入減に対する補助を行ったことで、これまでの保育サービスが継続可能になっているほか、保護者の新たなニーズにも応えることが可能になっており、結果的に子育て世帯への支援につながった。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由)</p> <p>A 保育施設のサービスの充実は、より良い保育環境と保護者のニーズ対応という点で切り離せないものであり、出生数の減少に伴う補填は公的機関が実施するほかなく、結果的に子育て世帯へサービス提供となっている。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等)</p> <p>A ・仕事を持つ親にとっては大変ありがたい事業であり、今後も継続すべき事業と思う。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	子育て世代負担軽減事業		所管係	子育て支援係																												
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																															
施策名	20 安心して子育てができる環境づくり																															
事業費	予算額	16,244千円	決算見込額	15,249千円																												
<p>1 目的 子育て世帯にかかる負担について、その解消を図るために町独自施策を展開し、安心して子育てができる環境づくりを推進する。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育料軽減事業 <ul style="list-style-type: none"> ①町独自軽減事業 世帯で第1子、第2子の保育料を1/2補助、第3子以上の保育料を全額補助。 ②県段階的無償化事業 所得階層8区分のうち、第3・第4階層を県と連携して無償化する。(第1・第2階層無償化済) ③育児休業中保育利用料給付金事業 たんぽぽこども園を利用する児童の保護者が育児休業を利用する場合、保育短時間認定と同様のサービスを受けるために必要となる利用料や副食費を給付する。 ・副食費補助事業 町基準の範囲内において、公定価格との差額を町の児童に補助し、無償化する。 ・家庭保育支援給付金 1歳未満の児童を家庭で保育する場合に、月額30,000円までを支給する。 <p>3 効果 子育て世帯の保育に係る費用負担を軽減することにより、子育て世帯では経済的な余裕を持つことができた。子育て世代の生活が安定することにより、子育てに対する安心感が図られ、子どもの健全な育成に繋がっている。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目 (評価の視点)</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか (目的達成度)</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 子育て世帯の保育に係る費用負担の軽減及び家庭保育給付金は、保護者のニーズがあり、生活の経済的負担の軽減につながっているため。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A 該当者のニーズを定期的に把握し、事業に反映させていること、さらに内容が、町として掲げる「子育てに夢をもてる環境づくり」という基本方針に合致した施策になっていることを評価したい。</p>					評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	B																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	県立新庄神室産業高等学校真室川校魅力化地域連携事業 (真室川校支援事業含む)		所管係	学校教育係																																
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																																			
施策名	21 町ならではの教育基盤の整備																																			
事業費	予算額	4,576千円	決算見込額	3,212千円																																
<p>1 目的</p> <p>真室川校の地域に根差した教育活動を支援し、活力あるまちづくりと地域への誇りと愛着を持ち、地域をののために何かしたいと思うような地域を支える人材育成を図る。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者数 R4:9人(うち真中生 4人) → R5:7人(うち真中生 3人) ・入学及び進学支援金(入学:10万円、進学:5万円)、資格取得支援の実施等 ・【新規取組】きずな授業(歌、工作、書道等)、さなぶり手仕事まつり(伝承野菜の料理提供)地域探究プログラム、eスポーツ、ふきのとうJr.の配付 ・【継続取組】小高合同調理実習、キャリア教育の推進、ボランティアの実施、コーディネーターの配置 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に愛着を持つ生徒の増加により、地域を支える人材の育成が図られた。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目(評価の視点)</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか(目的達成度)</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由)</p> <p>A 少子化に伴い、1クラス定員40名の半数20名には達していないが、進路選択の一つとして地域と一体となった授業や交流を行っている真室川校は、地域にとって魅力のある欠かせない高校となっている。引き続き、継続した魅力ある事業を実施していく必要がある。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等)</p> <p>A 生徒数が少ないながらも、町とのつながりが多い学校と感じる。</p>					評価項目(評価の視点)		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目(評価の視点)		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している	B																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	公民館分館運営費補助金/施設整備費補助金		所管係	生涯学習係																																
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる																																			
施策名	22 地域の教育力向上を目指した学習環境等の充実																																			
事業費	予算額	2,628千円	決算見込額	2,530千円																																
<p>1 目的 町内集落における地域活動の活性化を促進するため、真室川町公民館設置及び管理条例に規定する分館の修繕及び管理運営する費用に対して、補助することを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営費補助金 対象：光熱費など分館の維持管理経費 補助率：10/10・上限4万円 施設整備費補助金 対象：分館の改修、新築、解体、大型備品の購入 補助率：事業費の合計が10万円以上のものに対し、3分の1を補助・上限300万円 分館運営費補助金：町内55分館中53分館が補助金を申請 2,102千円 分館施設整備費補助金：宮町一分館（外壁塗装）、小国地区分館（外壁塗装）、釜淵一地区分館（屋根塗装、エアコン設置） 428千円 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で社会教育の場として使用されている分館の維持管理経費について、地元負担軽減の一助となっている。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 多くの分館において、維持管理経費の負担軽減につながっている一方で、人口減少や高齢化の課題があり、社会教育活動よりも集会所としての役割が多くみられる。また、戸数が少ない地域では、施設整備の2/3の地元負担も大きく感じている場合も見られる。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A</p>					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	社会教育施設長寿命化事業		所管係	生涯学習係																												
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる																															
施策名	22 地域の教育力向上を目指した学習環境等の充実																															
事業費	予算額	4,500千円	決算見込額	4,302千円																												
<p>1 目的 これまでの対処保全的な方法から、予防保全的な方法へ転換することで、社会教育施設の機能や設備を良好な状態に保ち、施設の長寿命化に努めることを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度3月策定の真室川教育施設長寿命化計画に基づき、令和12年度までの10年間の計画期間における施設長寿命化を推進する。 対象施設：中央公民館、歴史民俗資料館、差首鍋地区生涯学習センター、小又地区交流センター、中ノ股地区交流センター 令和5年度は中央公民館大規模改修費用算出委託及び各施設の小破修繕のみ 計画に基づき、緊急度に基づき優先順位を定め予防保全を実施しているが、中央公民館については改修費用が大きく、アスベスト使用や吊り天井等の現在の建築基準を満たさない建物であることから、改築（新築）として計画策定を進めている。 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 長寿命化により使用年数の向上はもとより、ライフサイクルコストの縮減と財政負担の平準化が図られる。 建築年度が経過している施設が多いことに加え、資材や人件費の高騰により計画段階の概算事業費を大幅に上回る事業費が必要となっている。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 施設の使用年数向上のために、予防保全としての対応は重要である。中央公民館については補助金などの財源を確保しながら、人口規模に見合う施設計画を心掛ける。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A 中央公民館は、これまでも町の文化芸術の発展、振興に寄与する拠点としての役割を果たしてきたのだと思う。特に舞台を含む大ホールは、小中学生にとっても、文化芸術に触れる場であると同時に、発表発信のあこがれという意味合いでも重要であると感じている。今回、改築（新築）という大きな決断をされたことに敬意を表するとともに、「みんなで育む学びのまち真室川」の拠点施設となることを期待したい。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	生涯学習推進事業		所管係	生涯学習係																																						
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる																																									
施策名	23 ライフステージに応じた学びの機会の支援																																									
事業費	予算額	509千円	決算見込額	314千円																																						
<p>1 目的 児童から高齢者まで様々な世代がライフステージに応じた学習機会を得て、主体的に自らが学び充実した生活とともに、身近な課題の解決につながるような取り組みを推進することを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 古河市少年少女交流（別掲） ・スタディツアー（別掲） 栄寿大学講座 43回 483人 まざれや体験塾 11回 82人 まちづくり出前講座 13回 293人 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症が第5類に移行して以降、徐々に以前の活動形態に戻り、各世代に応じた取り組みを推進している。 高校生ボランティアの取り組みについて、生徒数の減少により事業の継続が難しい状況にあるため中学生も含めた新たなボランティアの枠組みを検討している。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="3">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td colspan="2">教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td colspan="2">目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td colspan="2">適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) B 世代ごとの交流、世代間の交流は地域づくりの基本であり、自主的に学ぶ機会の場の創出は地域課題解決のきっかけにもつながるものであるため、持続的な取り組みが必要である。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) B ・ライフステージに応じた学びの機会の支援は、教育振興計画の基本目標である「みんなで育む学びのまち真室川」の基盤をなす重要な施策の一つと言えると思う。コロナ禍においてリセットされた事業等を再開復活させる場合には、是非、対象者及びねらいと活動内容の整合性をしっかり吟味していただければと思う。 ・ボランティア活動については、真室川校だけでなく、真室川中学校出身者のいる高校などと、横のつながりがあっても良いと感じる。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分			判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある		C	必要性や緊急性が低い		有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している		B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難		公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）		A	B	対象や負担の見直しの余地がある		C	適切でない	
評価項目（評価の視点）	評価区分			判定																																						
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		B																																						
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																								
	C	必要性や緊急性が低い																																								
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している		B																																						
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																								
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																								
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）		A																																						
	B	対象や負担の見直しの余地がある																																								
	C	適切でない																																								

事務事業名	古河市少年少女交流事業		所管係	生涯学習係																												
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる																															
施策名	23 ライフステージに応じた学びの機会の支援																															
事業費	予算額	530千円	決算見込額	522千円																												
<p>1 目的 鮭延城（真室城）主、鮭延越前守秀綱公の墓所がある古河市と真室川町との少年少女の相互交流を通し、両市町の古き歴史を紐解き、相互間における絆と友情を深めるとともに、21世紀を担う健やかな少年少女の育成を図ることを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗 ・年度毎互いに各市町を訪問しているが、コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度以降は中止としていた。 ・令和5年度は4年ぶりに真室川町を会場に開催し、本町児童30名、古河市児童32名が参加し、歴史的なつながりとともに相互交流を図った。</p> <p>3 効果 ・互いの町村にかかわる歴史的なつながりを通して、相互交流とともに児童の健全育成に資する事業となっている。 ・町内以外の児童と交流を持つ機会は限られていることから、参加児童にとっては貴重な機会となっている。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A コロナ禍により、数年間事業を中止していたことに加え、本町児童数の減少により参加者の確保に苦慮した点がある。今後、更に児童数が減少することも想定されるため交流の在り方に工夫を要する。また、物価高騰により事業経費の増加が見られることから、参加費（3,000円）の見直しも含め検討する必要がある。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・姉妹都市であるため、引き続き継続していただきたい。 ・参加費用の見直しがあったとしても、子どもたちにとってはとても良い学びの機会になると感じるため、継続すべき事業と思う。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	学校・家庭・地域等との連携協働推進事業		所管係	生涯学習係																																				
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる																																							
施策名	24 学校・家庭・地域等との連携・協働																																							
事業費	予算額	9,024千円	決算見込額	8,646千円																																				
1 目的	<p>学校や家庭（保護者）、諸団体等により、地域ぐるみで児童の学びや成長を支援することで、学校を核に地域の活性化や持続可能な地域づくりをすることを目的とする。</p>																																							
2 現状・進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校各校に地域学校協働コーディネーターを配置 各校1名 ・コーディネーターによる学習支援、図書支援、読み聞かせ団体との連絡調整 ・地域住民等の参画による放課後等の体験活動（希少動物の観察会の開催）3回 ・家庭教育支援としての保護者向け講演会（子育て講座など）の開催 4回 <p>※決算額のうち2,986千円（国県補助金として財源あり）</p>																																							
3 効果	<p>地域の方々から教育にかかわっていただくことで、地域全体で児童の学びや育ちを支援することにつながるとともに、コーディネーターを各校に配置することで、きめ細やかな学びの支援にもつながっている。</p>																																							
4 自己評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> <tr> <td>内部評価</td> <td colspan="3"> <p>（評価の理由）</p> <p>A 国施策のため評価することは難しいが、少子化や統合が進む中で、地域とのかかわりを保ちつつ、地域ぐるみでの教育実現に欠くことができない。コーディネーターについては、学校と地域との橋渡し役であることから、会計年度任用職員ではあるが、地域にも精通し一定の経験がある人材の確保について配慮していく必要がある。</p> </td> </tr> <tr> <td>外部評価</td> <td colspan="3"> <p>（外部評価委員の意見等）</p> <p>A</p> </td> </tr> </tbody> </table>				評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価	<p>（評価の理由）</p> <p>A 国施策のため評価することは難しいが、少子化や統合が進む中で、地域とのかかわりを保ちつつ、地域ぐるみでの教育実現に欠くことができない。コーディネーターについては、学校と地域との橋渡し役であることから、会計年度任用職員ではあるが、地域にも精通し一定の経験がある人材の確保について配慮していく必要がある。</p>			外部評価	<p>（外部評価委員の意見等）</p> <p>A</p>		
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																																					
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																					
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																						
	C	必要性や緊急性が低い																																						
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																					
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																						
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																						
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																					
	B	対象や負担の見直しの余地がある																																						
	C	適切でない																																						
内部評価	<p>（評価の理由）</p> <p>A 国施策のため評価することは難しいが、少子化や統合が進む中で、地域とのかかわりを保ちつつ、地域ぐるみでの教育実現に欠くことができない。コーディネーターについては、学校と地域との橋渡し役であることから、会計年度任用職員ではあるが、地域にも精通し一定の経験がある人材の確保について配慮していく必要がある。</p>																																							
外部評価	<p>（外部評価委員の意見等）</p> <p>A</p>																																							

事務事業名	まちなか図書館構想事業	所管係	生涯学習係
基本方針	11 感性豊かに生きる学びの場をつくる		
施策名	25 文化に親しみ、文化を愛する環境づくり		
事業費	予算額	762千円	決算見込額
			682千円

1 目的
 より多くの本に親しむ環境を提供し、知的好奇心の向上と本に親しむ文化の醸成を図るとともに、本を介した交流の場を創出し、豊かな生き方の追求につなげることを目的とする。

2 現状・進捗

- ・〈中央公民館図書室〉 蔵書数：22,618冊 (R4 21,365)、利用冊数7,522冊 (R4 7,126)
- ・小さな本棚の設置：町内9箇所 (駅、銀行、理容店ほか)
- ・ブックスタート6回 (15組30人) ・ブックスタートプラス4回 (31組64人)
- ・イベント回数 5回、参加者約300名 (読み聞かせイベント、古本市)
- ・図書館パートナーズ 18名 活動日数42回 (延べ56人)

3 効果

- ・「小さな本棚」の設置や「古本市」の開催により、本を身近に感じてもらうことで、町民の知的好奇心の向上につながった。
- ・乳幼児期からの取り組みとして、読育の重要性を理解して頂くための取り組み (ブックスタート、ブックスタートプラス) や読み聞かせイベントなどを実施し、家庭教育や乳幼児期の言葉力の向上につながっている。

4 自己評価

評価項目 (評価の視点)		評価区分		判定
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある	
		C	必要性や緊急性が低い	
有効性	成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	A
		B	対象や負担の見直しの余地がある	
		C	適切でない	

内部評価 (評価の理由)

A 限りある中央公民館のスペースを利用し、県立図書館との相互借入等を活用しながら町民が読みたい本の配置や、小さな本棚の配置を通じて、本に親しむ環境づくりに寄与している。

外部評価 (外部評価委員の意見等)

A

- ・活字離れが社会問題として指摘される現代において、生涯にわたり本を身近に置く環境づくりは、学びのまち真室川の基盤となる事業の一つであるとともに、児童生徒の学力向上にもつながるもので、最終的には人間性豊かな人づくりに結びつくものと期待している。
- ・足を運ぶ度に図書スペースが整備されていて気持ちが良い。
- ・入口に入るだけで絵本や本が目に入り、本に触れる機会が増え、小さな子ども興味を持つことができる大変良い場と感じる。町のあちらこちらにあることで自然と手が伸び、大変良い環境になっている。

事務事業名	スタディツアー事業		所管係	生涯学習係																																						
基本方針	11 感性豊かに生きる学びの場をつくる																																									
施策名	25 文化に親しみ、文化を愛する環境づくり																																									
事業費	予算額	167千円	決算見込額	85千円																																						
<p>1 目的 自然、歴史、文化など町にある資源を体系的に大人が学ぶことにより、郷土愛の醸成と町民が自発的かつ積極的に学ぼうとする心を育むことを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗 令和5年度までに計10回（2回/年、うち2回はオンライン）実施している。 <令和5年度> ・第9回 化石発掘への挑戦～マムロガワクジラに会う旅～編（6/24） 38人参加 ・第10回 真室川の宝箱PART 1～国重要文化財・県指定文化財と会う旅～編（10/21） 34人参加</p> <p>3 効果 ・普段は見ることがない（出来ない）資源を見たり学んだりすることで、郷土愛の醸成につながった。 ・地域の大人が積極的に学ぶことは、地域教育力の向上につながる。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="3">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td colspan="2">教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td colspan="2">目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td colspan="2">適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 普段ふれることがない地域資源を体系的に学ぶことは、参加者の自発的な学びにつながるものであり「町の宝」を再認識することにつながっている。一方で、参加者のリピート率が高いため、新たな参加者の獲得や交流人口の拡大という点について課題がある。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・大人の社会科見学「真室川スタディツアー」は、町の学習資源の掘り起こしという観点からも、貴重且つ重要な取り組みだと思う。是非、終了後に資料としてまとめ、小中学生が調べ学習に活用できる教育資源となることを期待したい。 ・リピート率が高いということは、楽しい、良かったと実感されている事であり、この事業が評価されていると言える。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分			判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある		C	必要性や緊急性が低い		有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している		A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難		公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）		B	B	対象や負担の見直しの余地がある		C	適切でない	
評価項目（評価の視点）	評価区分			判定																																						
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		A																																						
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																								
	C	必要性や緊急性が低い																																								
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している		A																																						
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																								
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																								
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）		B																																						
	B	対象や負担の見直しの余地がある																																								
	C	適切でない																																								

事務事業名	スポーツ部門本物教室事業		所管係	生涯学習係																																						
基本方針	12 誰もが楽しめるスポーツを推進する																																									
施策名	26 スポーツに親しみ、健康な体づくり																																									
事業費	予算額	30千円	決算見込額	30千円																																						
<p>1 目的 県内には、サッカー、バスケット、バレーボールのプロスポーツチームがあり、一流のプロスポーツ選手のプレーに直接触れることで、児童生徒の感性を刺激し、スポーツに対しての意欲と意識の向上を図ることを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(サッカー) モンテディオ山形市町村応援デー 5/21バスツアー参加者 9名 ・(バスケット) 山形ワイバンズ2選手 あさひ小5・6年児童との交流 ・(バレーボール) アランマーレ山形2選手 真室川小訪問 交流給食ほか <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツ選手との交流やプレーに直接触れることで、児童生徒のスポーツに対する意欲の向上につながる。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目(評価の視点)</th> <th colspan="3">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td colspan="2">教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか(目的達成度)</td> <td>A</td> <td colspan="2">目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td colspan="2">適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) B プロスポーツ選手との交流は、体験学習として児童生徒に好影響を与えている。サッカー市町村応援デーは、スポ少や部活動の繁忙期であるため日程調整に工夫を要するが、その他競技を含め、プロスポーツが身近にあるため、休日などを利用して自由な時間に観戦する児童生徒も増えていることから、観戦ツアーの対象や目的を見直す必要もある。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) B ・直接ふれ合えることで子どもたちの目が輝いている。 ・プロ選手との交流は子どもたちに何かしらの刺激を与えてくれるため、継続すべき事業と思う。モンテディオの市町村応援デーは、子ども達の行事と重なるため、見直すべき点と思う。</p>					評価項目(評価の視点)	評価区分			判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある		C	必要性や緊急性が低い		有効性 成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している		B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難		公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)		A	B	対象や負担の見直しの余地がある		C	適切でない	
評価項目(評価の視点)	評価区分			判定																																						
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		B																																						
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																								
	C	必要性や緊急性が低い																																								
有効性 成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している		B																																						
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																								
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																								
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)		A																																						
	B	対象や負担の見直しの余地がある																																								
	C	適切でない																																								

事務事業名	社会体育施設長寿命化事業		所管係	生涯学習係																												
基本方針	12 誰もが楽しめるスポーツを推進する																															
施策名	26 スポーツに親しみ、健康な体づくり																															
事業費	予算額	40,217千円	決算見込額	39,379千円																												
<p>1 目的 これまでの対処保全的な方法から、予防保全的な方法へ転換することで、社会教育施設の機能や設備を良好な状態に保ち、施設の長寿命化に努めることを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度3月策定の真室川教育施設長寿命化計画に基づき、令和12年度までの10年間の計画期間における施設長寿命化を推進する。 対象施設：町民体育館、町民武道館、運動公園機械格納庫、運動公園トイレ、スキーハウス、クロスカントリーハウス テニスコート、野球場、多目的広場、グラウンドゴルフ場等は教育施設長寿命化計画ではなく都市公園の長寿命化計画に含まれている。 令和5年度実績：町民体育館エレベーター改修工事、町民体育館排水管布設替え及びトイレ改修工事、運動公園高圧機器更新工事 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 長寿命化により使用年数の向上はもとより、ライフサイクルコストの縮減と財政負担の平準化が図られる。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 施設の使用年数向上のために、予防保全としての対応は重要であり、今後も施設を適正に保つためには計画的な改修は欠くことができない。課題として、資材や人件費の高騰により計画段階の概算事業費を大幅に上回る事業費が必要となっている。</p> <p>外部評価 A (外部評価委員の意見等) ・社会体育施設及び環境の整備については、必要に応じて迅速に行われており、大いに評価できる。さらに、対処的修繕から、予防的且つ計画的な改修という視点での長寿命化を推進しようとする姿勢が素晴らしい。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	生涯スポーツ振興事業		所管係	生涯学習係																																						
基本方針	12 誰もが楽しめるスポーツを推進する																																									
施策名	26 スポーツに親しみ、健康な体づくり																																									
事業費	予算額	4,886千円	決算見込額	4,071千円																																						
<p>1 目的 児童から高齢者まで気軽にスポーツ・レクリエーションに親しめる環境づくりとともに、各競技団体やスポーツ少年団と連携し、選手や指導者の育成支援を図ることを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ協会表彰者数 63名 (R4 62名) ・小学生対象陸上教室 計6回開催 延べ参加者数 102名 ・町民総合体育大会 9競技 計419名参加 (バドミントン、テニス、バスケット、柔道、バレー、卓球、グラウンドゴルフ、ターゲットバードゴルフ、ゴルフ) ・秋山スキー大会 小雪のため中止 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体競技(野球、サッカー等)を中心に県大会以上での入賞者数が多数出ている。 ・小雪のため、スキー場は開設できなかったが、社会体育施設全体で6万人以上の利用があった。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目(評価の視点)</th> <th colspan="3">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td colspan="2">教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか(目的達成度)</td> <td>A</td> <td colspan="2">目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td colspan="2">適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) B 競技力向上のほか、多くの年代がスポーツに親しむことは、健康増進の一助につながることから、65歳以上及び小中学生の施設利用使用料を減免し、底辺の拡大に努めている。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) B ・目的にある、選手や指導者の育成支援を図るとあるが、指導者の育成支援はどのようなことを実施しているのか見えない。 ・小中学生や65歳以上の施設利用に係る使用料の減免については、より利用しやすい環境づくりとして評価すべきと思う。</p>					評価項目(評価の視点)	評価区分			判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある		C	必要性や緊急性が低い		有効性 成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している		B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難		公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)		A	B	対象や負担の見直しの余地がある		C	適切でない	
評価項目(評価の視点)	評価区分			判定																																						
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		B																																						
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																								
	C	必要性や緊急性が低い																																								
有効性 成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している		B																																						
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																								
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																								
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)		A																																						
	B	対象や負担の見直しの余地がある																																								
	C	適切でない																																								

事務事業名	ふるさと文化推進事業		所管係	生涯学習係																																						
基本方針	13 ふるさとをおもう心を耕す場をつくる																																									
施策名	28 郷土愛の醸成																																									
事業費	予算額	2,019千円	決算見込額	1,404千円																																						
<p>1 目的 伝統ある歴史や文化に触れる機会を創出し、「学びの資源」として活用することで町を大切にしたいと思える心を育むことを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗 <事業実施状況> ・甕山番楽奉納祭 6/3 ・第39回山形県児童生徒版画作品展 10/1～10/10展示 788点出展 ・第31回番楽フェスティバル 10/15 町内3団体、町外2団体 ・第21回ふるさと子ども伝承祭 11/26 10団体出演 ・地元学・伝承文化アドバイザーの派遣 2回 (7/29、11/26)</p> <p>3 効果 ・作品展や事業を実施することにより、歴史や文化に触れる機会を創出するとともに、伝承文化の継承や関係団体の技術の向上などにつながっている。</p> <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目 (評価の視点)</th> <th colspan="3">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td colspan="2">教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか (目的達成度)</td> <td>A</td> <td colspan="2">目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td colspan="2">適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td colspan="2">対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td colspan="2">適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由) A 地域における伝承文化の継承や、文化に触れることによる郷土愛の醸成につながっている。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・学校の太鼓クラブなどは指導者の不在でなくなってしまった。地域の伝統文化の継承を大事にしてほしい。</p>					評価項目 (評価の視点)	評価区分			判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある		C	必要性や緊急性が低い		有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している		A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難		公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)		A	B	対象や負担の見直しの余地がある		C	適切でない	
評価項目 (評価の視点)	評価区分			判定																																						
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である		B																																						
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																								
	C	必要性や緊急性が低い																																								
有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している		A																																						
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																								
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																								
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)		A																																						
	B	対象や負担の見直しの余地がある																																								
	C	適切でない																																								

事務事業名	文化財保護事業		所管係	生涯学習係																												
基本方針	13 ふるさとをおもう心を耕す場をつくる																															
施策名	28 郷土愛の醸成																															
事業費	予算額	1,244千円	決算見込額	1,024千円																												
<p>1 目的</p> <p>文化財保護法及び山形県文化財保護条例の規定による指定を受けた文化財以外の文化財で町の区域内に存するもののうち、町にとって重要なものについてその保存及び活用に必要な措置を講じ、町民の文化的向上に資するとともに、わが国文化の進歩に貢献することを目的とする。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護委員会の設置（委員5名） 町内文化財の巡回（適切な保存がなされているかを確認） 文化財の維持管理について地域に委託（鮭延城址、中村湿原、滝ノ沢の一本杉、及位台場跡地） 内町銅造如来倚像管理補助金の支出 <指定状況>国指定重要文化財2件、県指定有形文化財1件、県指定記念物1件、町指定有形文化財6件、町指定民俗文化財3件、町指定記念物3件 <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財は所有者の権限によるものであるため、指定を行い管理委託、補助金、巡回指導を適宜行うことで適正管理を促す。 スタディツアーやまざれや体験塾、小学校の出前講座などで文化財を紹介し、身近に感じてもらうことにより、町の歴史を知る機会を提供し、郷土愛の醸成にもつながっている。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由)</p> <p>A 法律および県並びに町の条例に基づき、適正な維持管理につながるものであり、町民の文化的向上に資するものである。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等)</p> <p>A 文化財の維持管理について、各組織で管理・保護していることをはじめて知った。一方、維持管理されている方が高齢者になってきているため、次代の管理者のなり手がいるのか調査する必要があるのではないか。</p>					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	歴史民俗資料館運営事業		所管係	生涯学習係																												
基本方針	13 ふるさとおもいう心を耕す場をつくる																															
施策名	28 郷土愛の醸成																															
事業費	予算額	7,488千円	決算見込額	6,615千円																												
<p>1 目的</p> <p>町民の文化的向上と、地方文化の振興に寄与するとともに文化財保護思想の高揚を図るために歴史民俗資料館を設置する。</p> <p>2 現状・進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度より、課長兼務であった館長を配置し、3名体制で企画運営を行っている。 ＜特別企画展＞3回 <ul style="list-style-type: none"> 7/19-9/24 おかえりなさいmamlogakujira展 10/28-12/8 佐藤文吉生誕100周年 文吉こけし展 2/24-4/7 真室川雛人形展 令和5年度より、多くの方に来館いただくために、企画展期間中は入館料を無料としている。 入館者数：R4 982人 → R5 2930人 (+1948人 198%増) <p>3 効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい館長を迎え、県立博物館と連携や、町歴史研究会の協力を得て企画展を開催したことにより、大幅な来館者数の増につながった。 <p>4 自己評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目 (評価の視点)</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか (目的達成度)</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <p>内部評価 (評価の理由)</p> <p>A 県立博物館や歴史研究会との連携により、低予算ながらも思考を凝らした企画展を運営している。博物館法に基づかない資料館であるため、学芸員を必置としていないが、今後も真室川町らしい企画展や展示を心掛けていく。</p> <p>外部評価 (外部評価委員の意見等)</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> mamlogakujiraがメディアにも取り上げられ、大いに話題をよんだ。子どもにも興味のあるものを企画すると来館者増につながると感じる。 県立博物館でmamlogakujiraを拝見したが、改めて歴史民俗資料館で拝見し、より近くで見ることができ凝縮された感じで子どもも大人も楽しめる企画展だった。また真室川らしい企画展を開催していただきたい。 					評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目 (評価の視点)	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

【評価基準】

評価	評価区分	考え方
A	・ 十分成果が上がっている	優れた取組みや状況等が見られ、課題はほとんどなく、順調に進んでいるもの
B	・ 成果が見える	良い取組みや状況等が見られ、若干の課題はあるものの、概ね順調に進んでいるもの
C	・ 一定の成果が見えるが、改善が必要	一定の成果はあったが課題が生じたもの
D	・ 成果が上がっておらず、抜本的な見直しや廃止の検討が必要	課題が多く着手できていないか、着手してもほとんど成果が上がらない等、計画がほとんど進まなかったもの

教育委員会の活動報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

1 教育委員会組織

○委員の就任状況

令和5年3月31日現在

役 職	氏 名	就任年月日	摘 要
教育長	門脇 昭	H30. 4. 1	2期目
委 員	遠田 且子	H22. 12. 16	4期目
委 員	山田 敏一	H28. 10. 1	2期目
委 員	鮭延 三枝子	H29. 12. 25	2期目
委 員	中塚 聖子	R1. 10. 1	1期目

2 町総合教育会議の開催

○第1回総合教育会議

開催日 令和5年10月24日

議 題 (1)学校給食・保育料等のあり方について

- ①学校給食の今後の方向について
- ②保育料のあり方について
- ③学童保育について

3 教育委員会の会議等の開催状況

教育委員会の会議は、原則として毎月1回（定例会・臨時会・協議会等）開催しています。この会議では教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則の制定などについて審議します。

区 分	開催日	主な協議事項
協議会	R5. 4. 26	・町教育振興計画の推進について
定例会	R5. 5. 22	<ul style="list-style-type: none"> ・真室川町体育施設管理運営規則の一部を改正する規則の制定について ・学校医等の委嘱について ・真室川町教育支援委員会委員の委嘱について ・真室川町特別支援教育推進委員会委員の委嘱について ・真室川町学校教育指導委員会委員の委嘱について ・真室川町いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について ・真室川町学校運営協議会委員の任命について ・真室川町外国語教育推進委員会委員の委嘱について ・真室川町学校保健委員会委員の委嘱について ・真室川町教職員安全衛生委員会委員の委嘱について ・真室川町学校給食運営委員会委員の委嘱について ・真室川町学校給食献立作成委員会委員の委嘱について ・真室川町行事調整委員会委員の委嘱について

		<ul style="list-style-type: none"> ・真室川町文化行事企画委員会委員の委嘱について ・真室川町社会科副読本編集委員会委員の委嘱について ・真室川町文化財保護委員会委員及び真室川町立歴史民俗資料館運営委員会委員の委嘱について ・真室川町青少年問題協議会委員の委嘱について ・令和5年度教育予算補正案の原案について
臨時会	R5. 6. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・真室川町外部評価委員の委嘱について ・真室川町いじめ問題対策専門委員会委員の委嘱について ・第2次真室川町教育振興計画策定委員会委員の委嘱について
定例会	R5. 7. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度使用真室川町立小・中学校用教科用図書の採択について
定例会	R5. 8. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務・事業点検評価の報告について
協議会	R5. 9. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・重点施策の推進状況について
協議会	R5. 10. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員学校訪問について ・総合教育会議について
定例会	R5. 11. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度教育予算補正案の原案について
定例会	R5. 12. 26	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度教育予算案の原案について
協議会	R6. 1. 30	<ul style="list-style-type: none"> ・重点施策実施状況（おいしいふるさと給食、英検受検状況など）
定例会	R6. 2. 29	<ul style="list-style-type: none"> ・真室川町立中学校寄宿舎設置条例を廃止する条例の制定に係る原案について ・令和5年度教育予算補正案の原案について
臨時会	R6. 3. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員人事異動について ・第2次真室川町教育振興計画の策定について
定例会	R6. 3. 27	<ul style="list-style-type: none"> ・真室川町立小中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について ・令和6年度人事の審議について

4 その他の活動

(1) 会議・研修等への出席

- 教育職員全体研修会
- 町議会との教育懇話会
- 最上地区市町村教育委員会協議会研修総会
- 最上地区市町村教育委員会協議会研修会
- 山形県町村教育長会定期総会
- 山形県市町村教育委員会大会
- 山形県市町村教育委員会教育長会議
- 山形県市町村教育委員会協議会総会
- 東北町村教育長連絡協議会定期総会
- 東北六県市町村教育委員会研修会

(2) 学校等行事への出席

- 小中学校入学式、保育所入所式、こども園入園式
- 小中学校運動会、保育所運動会

○小体連陸上大会

○小中学校卒業式、保育所修了式、こども園卒園式

(3) 学校等訪問

○小中学校・保育所・こども園訪問